



Quality Corporation

1-4-5 Hirakawacho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0093 JAPAN

Phone : 81-3-5275-6121 FAX : 81-3-5275-6130

http://www.quality.co.jp/

eXCLT 運用担当者様 各位

2006年10月24日

クオリティ株式会社

eX CLT Ver3.7 分割保存変更点について

拝啓 日頃は弊社製品をご利用いただきまして誠にありがとうございます。eX CLT Ver3.7 へのバージョンアップに際し、ご注意いただきたい事項がありますのでご案内させていただきます。

敬具

記

■ 分割保存の動作

eX CLT Ver3.6 SP1 (SP2 含む) では、分割保存用スクリプトをタスクスケジューラにより設定しそのスケジュール通りに実行しておりましたが、Ver3.7 では毎日の日時処理で分割保存を実現できるよう以下のように仕様を変更しています。

・ 分割単位の指定日のみ実行される内容

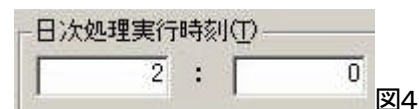
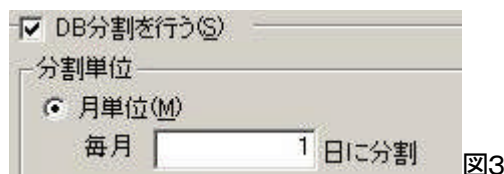
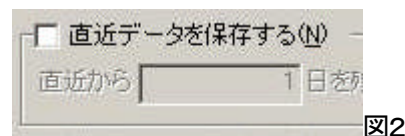
分割単位(図3)で指定した分割実行日の翌日の日次処理実行時刻(図4)に、分割 DB 出力先フォルダ(図1)に前回分割日をフォルダ名として作成します。

例) 下図の例では、9月2日2時に20060901 というフォルダが作成され、翌月の1日まではこのフォルダにデータがコピーされます。

・ 毎日実行される内容

日時処理実行時刻(図4)に、前日までにデータベースに登録されたデータを、最新の分割 DB ファイルにコピーします。

直近データの保存(図2)が指定されていた場合、運用 DB にその日数分のデータを残します。指定されていない場合、分割 DB にコピーされていないデータを残して削除します。



■ 分割保存先フォルダの名前付けルール

eX CLT Ver3.6 SP1 (SP2 含む) の分割保存先フォルダの名称は、分割保存用スクリプトが実行された日付がフォルダ名として付けられておりましたが、eX CLT Ver3.7 ではこの仕様を変更されております。

例) 毎月1日に分割保存を行った場合のフォルダの中身

Ver3.6: スクリプト実行時までに登録されたログ

Ver3.7: 前回分割実行日～今回実行日の前日までに登録されたログ



Quality Corporation

1-4-5 Hirakawacho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0093 JAPAN

Phone : 81-3-5275-6121 FAX : 81-3-5275-6130

http://www.quality.co.jp/

■ 運用 DB と参照 DB

eX CLT Ver3.7 では、運用中のデータベースと参照用のデータベースの切り替えが CLT コンソールから可能になっています。また、参照 DB に切り替えを行った際にも運用 DB への登録処理が停止することが無くなっています。

例) 分割単位は毎月1日の 2:00 に実行、9 月 3 日 10 時にそれぞれの DB を参照した場合
(図2直近データの保存は行っていない場合)

- ・運用 DB : 9 月 3 日に登録されたデータ
- ・参照 DB 20060901 : 9 月 1 日～9 月 2 日までに登録されたデータ

※図2直近データの保存を指定することで運用 DB に過去何日間のデータを保存しておくことが可能

■ 分割保存設定の移行について

Ver3.7 以前のバージョンで分割保存設定を行っている場合、タスクスケジューラの指定によっては設定が移行できない場合がありますので、その際はタスクスケジューラの設定を削除していただき、CLT コンソールで分割保存設定を行って下さい。

タスクに設定が残っていた場合は移行できていないことになります。

なお、以下の設定の場合、設定が完全に移行できないことが確認されています。

- ・ ○日間隔、1ヶ月間隔以外の指定がされている場合
- ・ 毎月 18 日と 28 日のように、月 2 回以上特定の日にちが指定されている場合

■ バージョンアップの際の注意点

Ver3.7 にバージョンアップされる際は、最後の分割保存先フォルダ名の変更を行ってから実施してください。これは、前述の通り Ver3.7 から分割保存先のフォルダ命名ルールが変更されたことによる問題(分割保存実行日と同一日にバージョンアップを行うとバージョンアップに失敗する可能性があります)を回避するためです。

例) 20060801 → 200608010

■ 定期的なデフラグ実行について

eX CLT サーバが稼働中のサーバにおいて HDD が過度のフラグメンテーションを起こした場合、問題が発生する可能性がありますので、定期的なデフラグの実行を推奨いたします。

以上